



目次

- ▽青年部瓦版
- ▽NTT設備事故防止のお願い
今月の義を見てせざるは勇無きなり
シャッターチャンス
- ▽JAグループ北海道座談会（下）
- ▽JAグループ通信
- ▽普及センター通信
- ▽販売情報
- ▽まちがいさがし
つばやくべえ～

大雨、大雪被害



大雨で畑に溜まった水が凍っている様子。



今月の 青年部

このコーナーは、地域の皆様に青年部を身近に感じて頂けるように、部員の日常の出来事を紹介しています



お歳暮アンケートにお答えいただいた方々にチーズ1kgやMILK JAPANグッズを送らせていただきました!

新型コロナウイルスによる感染症が全世界で猛威を振っている中、3月上旬の大雪と大雨により様々な被害がありました。青年部員も例外ではなく、広報部員と事務局が写真を撮影しました。

感染症のほかに自然災害にも対策をし、もしもの時に落ち着いて行動できるよう日々防災の意識を高め生活していくことが重要です。

《JAけねべつ青年部事務局 山田》

NTT設備事故防止のお願い

拝啓 時下皆様には益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。
 日頃より、弊社の電気通信事業に対し、格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。
 さて、農作業時期をむかえ作業が活発になるこの時期は、弊社電話設備に農業機械や農作物運搬車両等による事故が多発する傾向にあります。
 万が一事故が発生した場合、一般の電話やインターネット等の通信のみならず、**110番119番が繋がらない等、人命に関わる大きな問題**に波及しかねません。
 例年、特に畑への出入りの際に**電話ケーブルを切断する事故が多発している**ことから、大型農業機械・ユニック車・運搬車両の荷台等収納状態、**電話線等の距離を確保**していただき事故が起きないようにご協力をお願いいたします。

<もし事故を起こしてしまったら>
NTT東日本-北海道
局番なしの113番へ
 [携帯電話からは ☎0120-444-113へ]

<本件の問い合わせ>
 NTT東日本-北海道 北海道東支店
 設備部 サービスセンター
 〒080-0803 帯広市東3条南12丁目2番地
 NTT東ビルB棟3F
 Tel 0155-23-7964



[事故が発生させた場合]
 多額の復旧費用を負担して頂くこととなりますので、ご理解のほど宜しくお願いいたします。

今月の義を見てせざるは勇無きなり

先月同様のお話になりますが、新型コロナウイルスの脅威は未だ衰えを見せず、各地で不要不急の外出は控えるよう自粛要請が出される事態となりました。
 北海道でも2月下旬に鈴木知事より緊急事態宣言が発令されました。
 当初はそこまでする必要があるのかと疑問が強かった訳ですが、現状の道外の感染拡大状況を見ると、鈴木知事の早急な判断には敬意を表するところであります。
 日本各地でこの新型コロナウイルスの脅威により、外出を控え、仕事以外の時間は自宅で過ごし、テレビに没頭する方も多かったのではないのでしょうか？
 私もそのうちの一人で、普段あまり見ないテレビドラマを毎週のように見入っておりました。
 令和2年新春から始まった番組の一つに「テセウスの船」というタイトルのものがありました。
 この番組の内容では伝えませんが、ぜひ今後機会があればレンタルなどをして見ていただきたいと思いますが、そもそも「テセウスの船」という名称はどこからきたものなのか？
 このタイトルはギリシャ神話が基となっております。

英雄といわれたテセウスが乗っていた船はアテネの町に長い年月保存されておりました。その間、船の木材は徐々に朽ちていき、新たな木材に置き換えられました。
 最終的に元々の船に使われていた材料は全て違うものとなってしまいました。
 ここで疑問が生じます。
 果たして、この船は英雄テセウスの船なのか、それとも別の船なのか…。

太陽のように明るかった家族や大切な人が辛い出来事をきっかけにその明るさを失ってしまったなら、果たしてその家族や大切な人は以前と同じと言って良いのでしょうか…。

この「テセウスの船」の議論は未だ終焉に到達しておりません。その答えは皆様の心の中にあるのだと思います。

いずれにしても皆様の大切な人を悲しませることがないように、しっかりと健康管理に留意し、この社会的な緊急事態を乗り切っていきましょう。

今月のシャッターチャンス



3月11日早朝にかけの大雨により畑が湖のように…



【出席者】

- 小林 国之
北海道大学大学院農学研究院准教授
- 柴田 倫宏
JA北海道中央会専務理事
- 宮本 英靖
JAピンネ代表理事組合長
- 佐藤 正昭
JAこしみず代表理事組合長

出典：『北海協同組合通信2020新春特集号』
「持続可能なJAの事業運営」北海道協同組合通信社

労働力確保や施設整備で支援

小林 農協の事業運営について、経営的な見通しはなかなか厳しいが、組合員と向き合い、結集力を高めることで事業を持続させていくという話があった。実際に農協で力を入れている取り組みを紹介いただきたい。

佐藤 大切なのは生産力をきちんと上げることだが、うちも農家戸数の減少に伴って1戸当たりの耕作面積が増えている。そうすると、手間がかかる野菜などが減り、だんだん畑作3品中心の経営に戻ってしまいます。これでは輪作の面でもよくない。一番の問題である労働力不足に対応するため、3年前に農作業支援事業を立ち上げた。今は外国人技能実習生と日本人合わせて15人おり、ニーズに応じて労働力の不足している農家などが活用している。

ふたつめは耕畜連携で、うちは畜産が販売高の2割ほどしかないが、条件が悪い農地を吸収してもらったり、安定的に堆肥を調達する上でも畜産振興は地域にとって重要な課題だ。そこを重点的にやろうということで、酪農で数千ト規模の牛舎をつくる構想を立ててからもう5年もたつ。畑作地帯だからなかなか場所が

ない。そのため、今は離農する酪農家の牛舎を農協が借り上げ、そこからスタートしようと考えている。まずは生産力を維持することと、地域から人を減らさないこと。そのためどんな仕組みをつくるか。黙っているのは衰退の道しかないが、いろいろなことをやっていければ自然と人は集まってくるものだ。

また、畑作関係では新たな輪作体系の確立と併せて「畑作対策基金」の創設を検討している。

宮本 われわれのところは農地の8割が水田であり、中心となる米の生産性を高め、それをいかに集荷して有利販売していくかが農協の使命と考えている。1戸当たりの経営面積は平均16畝と、離農に伴ってこの10年間で2倍になっている。その中で米の施設については、行政の支援も受けながら新十津川町と浦臼町に1カ所ずつ、1万トの米ばら貯蔵施設があるが、3つめの1万トクラスを半乾ばら施設で整備したいという構想を持っている。現状の施設規模ではだんだん足りなくなってきたおり、次の策を打たなければ組合員の規模拡大に対応できない。遊休農地はなく、これからも1戸当たりの面積は増えていくだろう。農協の使命を果たす上でまずは施設が必要だと

考えている。もうひとつは、国のスマート農業実証プロジェクトの個人経営型に新十津川町の個人の農園が採用され、無人化・省力化に向けた機械導入に取り組んでいる。すでにドローンや田植え機については、行政と連携して助成金対応の中で導入を進めており、こうしたスマート農業にも地域を挙げて取り組んでいきたい。これからハード・ソフトの両面から、地域の作付面積を維持し、生産力を高めていくことにより、それが総合事業の中で、金融や共済、経済事業にもつながっていくという考えだ。

また、地方の農協は、行政や地域の皆さんと一体の組織、社会のライフレイン的な組織と位置付けられている。そのため、町の政策と共同で事業展開をしたり、逆にわれわれの取り組みに行政に入っていたり、そこは相互に参画していかなくてはならないと思っている。今も要請があれば、農協事業とはまったく関係がなくても、組織体をつくって行政と一緒にやっているし、そうすることによって、財政面を含め、農協の事業に対して行政から支援をいただける部分もある。

小林 農協としてやらなければならないことが増える一方で、経営の効率化も進めなければならぬ。これまで北海道の農協は、例えば生活店舗を外部的化したり、人件費などの事業管理費を削減しながら、何とか経営の合理化を進めてきたと思うが、今後を考えると、事業の外出しもある程度終わり、人件費の削減も限界にきている。加えて国からは「働き方改革」が求められており、これからどう効率を上げていくのかというところも課題。実際問題としてこれ以上、人を減らすわけにはいかないだろう。

宮本 逆に増やさざるを得ないのが現状で、すでに米の調製施設などは、働き方改革に対応するため、2班から3班集体制に変更しており、青年部の皆さんに手伝わってもらって何とか人手を確保している状況だ。

加えて事業管理費も上がる。特に大きいのは管理部門のチェック機能で、すべてにおいてダブルチェックが必要、ひとりに対応してはいけない、行動するときも2、3人で動くようにとの監査指導が入っており、これによる人件費の上昇が大きい。

佐藤 事業管理費は間違いなく上

がる。下がることはないだろう。特に、農作業支援事業などをやると農協全体で抱えるコストは上がっていく。加えて一番困っていることは、地方にはなかなか良い人材が集まりにくくなっていること。大学と連携してインターンシップをやりながら人材確保に取り組んでいるが、そこが難しくなってきた。女性職員もかつては8割が準職員だったが、もう正職員でなければ定着は望めない。社会環境の変化に合わせて、資格試験なども活用しながら、段階的に正職員にしていかなければだめだろう。

宮本 うちも準職で採用しても、初級の資格を取れば3年後には正職員の道を約束している。皆さん試験に真剣に取り組んでくれており、正職員になった後は管理部門以外も経験させるような人事も合わせて対応している。

小林 事業管理費の上昇は避けられない状況だが、こしみずの農作業支援事業などはまさに農家をサポートする素晴らしい取り組みだ。今後、部門としての収益性についてはどう考えているのか。

佐藤 そこが問題だ。派遣先の農家個々からはそれぞれいただが、支援事業はこれから先、農協の基幹

的な事業になると思う。そこは将来的に営農指導の対価をどうするのかということを含めて、考えていく必要がある。同時に、町の基幹産業を育てるためには行政の支援もいただきたい。酪農の法人化の話も、町と農協が出資する形で、しっかり経営管理しながら進めていきたいと考えている。そこで掛かるコストについても内部でしっかり議論していかなければならぬ。生産性を上げるために必要な経費だということを、組合員の皆さんと共有しなければできない話ではない。今こそ協同組合として、組合員にも意識変革を求めていかなければだめだろう。

小林 農協の仕事は農産物の販売など目に見える事業だけでなく、地域に関わるさまざまなことがある。それが経費でいうと事業管理費として出てくるわけだが、今後はどこかの段階で、手数料や賦課金のあり方を含め、農協の営農指導事業とは何かという話を整理して、個々の農協でどこまでやるのか、それをやるためにはどれだけコストがかかるのか、ひとつひとつ議論していくことも必要になってくるだろう。

宮本 実は、うちは2008年まで営農賦課金をもらっていなかった。旧新十津川農協は賦課金がなかった

ので、98年の3農協合併の折に、合併しても賦課金はもらわず、そのため営農指導にかかる資金は総合事業の中でやりくりしていたが、営農渉外課を設けたのをきっかけに賦課金をもらうことにした。水準は空知管内の平均で組合員1人当たり1万円、水田は10^ア当たり200円で、6万円が上限。これについては組合員から大きな反対もなく理解いただくことができた。

佐藤 うちも賦課金はもらっているが、施設を建てる時に出資金はもらわずにやってきた。農協経営の中でしっかり内部留保し、自分たちの努力でやるという方針だったから。ただし、これからはそうは言っていられない時期がくると思う。これから考えられるのは、手数料そのものを上げるのは無理だと思うが、コストとして掛かるものはいただくという形だろう。

一方、もらうばかりではなく、うちは事業分量配当で毎年約1億円を組合員に戻している。300戸強だから1戸平均30万円ほどだが、それを経営主の退職金として積んでいる。10年たてば300万円、20年たてば600万円になる。農家には退職金制度がないので、農家の経営管理のひとつとして、そういう仕組みも考

えておかなければならない。税金対策も同じで、相続や贈与税など総合的な税対策となるとあまり準備していない人も多く、農協がサポートしていかなければ。農家の経営を守るためにはそういう仕組みも必要だし、農協の経営にとっても重要になっている。

柴田 今回の事業基盤に関する検討に関しては、農水省も全国の農協に対し、営農指導を含めた経済事業を黒字化するよう指導しているが、最近では赤字だからすべてだめだというのではなく、農協が総合事業をやっていく中で、全体としてコントロールできてきているのであれば問題ないのではないかと、という言い方に変わってきている。経済事業は黒字にしてほしいという本来の思いはありつつも、例えば都市型農協などであれば、黒字までいかなくても賦課金をもらうことで「きちんとコントロールできてきている」と言えるのなら、外からいろいろ言う必要はないのではないかと。当然、コントロールできていないところに対しては厳しい対応になるが、農水省内でも少し流れが変わってきたように感じる。われわれとしてもそれに沿って取り組んでいきたい。

その中で金融事業をめぐる環境が

厳しいというのは共通した課題であり、この先も持続可能な経営基盤を確立する上で、それぞれの農協が自分たちの強みや弱みを考えて取り組んでいくということだと思う。奨励金など環境の変化に応じて各農協で毎年シミュレーションを繰り返しながら、中央会もそれを共有し、収支の改善見通しや安定的な収支を確保するためにはどうあるべきかなど、その農協に合わせたお手伝いをしてきたいと考えている。

ただし、この間、農協改革などを通じてさまざまなことがあったが、農協に対する社会の意識も変わりつつあるのではないかと。江藤農水大臣の就任あいさつでも、これだけ全国で災害が毎年ある中で、地域のJAのあり方については、本来の経済事業だけでなく、地域への貢献などをきちんと評価しなければだめだと発言していたし、併せて家族経営の位置づけをどうするのかという問題提起もしていた。時の大臣がああいう発言をしたのは重要なこと。潮目が変わってきたのではないかと感じている。

佐藤 農水省も農協改革の中で農協に対していろいろと厳しいことをやってきたが、中身をよく調べてみると、逆に協同組合が地域でどうい

うことをやっていたのか、見えてきたのではないかと。私自身、自分たちが進んでいる道は間違っていない、正しかったんだと改めて感じている。

小林 これからは「正しかった」ということをもつと声に出し、内外にわかりやすく伝えていくことが重要だろう。全国の農協でも組合員との対話として職員訪問などを実施しているところがあるが、ピンネの営農渉外課やこしみずの農作業支援事業などの取り組みは全国でも驚かれる事例だと思う。中央会と連携し、北海道からもぜひいろいろな形で発信していただきたい。小清水では農作業支援事業に人を呼ぶためラジオ番組などの媒体もどんどん活用して発信している。

佐藤 やるほうは大変だが、ラジオを聞いて実際に人が来てくれれば達成感があり、また頑張ろうとなる。その積み重ねが大事だと思う。

農作業支援事業に関しても、町内で廃校になった高校の跡地を活用して拠点施設をつくろうと今動いているが、その構想を上げてきたのは職員。かなり大きな施設だし、ランニングコストもかかる。これは大変だと思ったが、一緒になってやっていると形ができてくる。やらなければ何も生まれないが、やることによっ

て何かが生まれる。衰退よりは何かすること。それを職員が自分たちで考えて提案してきたところに心を打たれた。総代会で反対されればできないが、農協はそういう組織であり、組合員が受け止めることも大事だと思う。

柴田 職員の思いがそのような形で積み上がってくると、今度は理事者も組合員の皆さんに理解してもらおうと頑張る。そうしたひとつひとつの積み上げが、協同組合運動の原点という気がする。

事業間連携など結び付き柔軟に

小林 持続可能なJAのあり方というところで私が感じているのは、今は北海道に108JAがあり、これから少し合併が進む可能性はあると思うが、例えば事業間連携など、JA同士がもっと有機的に結び付くことによって、コスト面では事業管理費を削減したり、販売面ではより機敏な対応を可能にするといったことも求められていくのではないかと。

佐藤 オホーツク管内は14農協あり、うちを含めて合併はそれほど進んでいないが、これからは管内14農協が連携し、共通の課題を持ち寄りながら、将来ビジョンをつくっていく

くことが大事だと思う。その中で事業間連携に関して言えば、うちにはオホーツク農協連がある。小さな農協は人材確保が大変なので、各農協ではできないような事業の中身を精査し、それに対応できる人材をオホーツク農協連に集め、いつでも相談できるような組織にしていきたいと考えている。全道的な課題には中央会が対応してくれるが、管内特有の悩みというのもある。農協の駆け込み寺ではないが、オホーツク農協連を核にして、単体の農協事業のことでだけではなく、組織全体で地域を守り、共有のオホーツクブランドを大切に育てていくという、もっと広いところに目を向けていかなければだめだと思う。また、そうした相互的な取り組みを進めることによって、それを見ている組合員にも、協同組合やJAグループの大切さが自然と伝わっていくのではないかと考えている。

宮本 うちも事業連携に向けた新たな取り組みとして、中空知地域のJAたきかわ、JA新すながわ、ピンの3農協の間で選果施設の共同利用を検討してきた。青果物などの選果施設は各農協で持っているが、水田の規模拡大に伴い、どこの農協も野菜の生産規模が小さくなってき

ている。そのため3農協で事業連携を組み、共通する品目の選果施設を共有化できないかということを経営前に提案し、最初に花きの集荷・選果施設で実現することができた。JA新すながわの花をうちの施設で選別し、産地もしっかり明記しながら出荷している。また、たまねぎはJA新すながわが広域の事業連携で中心的な役割を担っており、この部分でも何とか中空知3農協で事業連携が組めないかという提案をしている。このほか、アスパラ、いんげんなども、それぞれの農協で小規模な施設を持っているが、地域で連携が取れないかと提案している。時間はかかるかもしれないが、規模が縮小して施設を維持できなくなる前に、何とか2つ、3つの事業連携を形にしていきたいと思っている。組合員のためにも、ぜひ進めていきたい。

佐藤 施設をまとめるのは大変だ。オホーツクでもビーンズブアクトリーをつくったが、あれは実現するまでに5年ぐらいかかった。管内のどん粉工場の再編も同じで、ようやくひとつ区切りがつくが、これは10年かかった。一度まとまれば行政などの支援も得られるが、やはりわが町、わが農協という思いがあるから時間がかかる。しかし、いよいよひ

どくなってからでは遅い。先の話をしていかなければ。

柴田 厳しくならないとまとまっていけないというのはまったくそのとおりで、ピンチをチャンスとして捉えないと、事業間連携などの話が出てこないと思う。例えば農協合併についても、今までのようにどんどん進めればいいとは思わないし、皆さんが考えた結果が単独での総合事業体だとすれば、その体制を維持していくためにできることは何か、各農協や地域で考える土壌が出来つつあるというのは、ある意味チャンスだと感じる。その中には、いろいろな事業間連携もあれば、施設の効率利用もある。それをどの範囲でやるのか。地域や事業内容によって、オホーツクのような地区単位でやることもあれば、中空知のような農協単位でやるものもある。そういう皆さんの協議の場に、われわれ中央会やホクレン、信連など連合会が入りながら、JAグループの役割を北海道全体で考え直し、トータルコストを圧縮していけるよう、中央会としてもできる限りのことをしていきたい。

また、全国的に持続可能な事業運営のあり方ということが出てきているのは、金融店舗やATMの集約化

などを通じて浮いた人員を対話型の業務に回すというのが大きな柱になっている。そう考えると、ピンの営農渉外課などはまさにそれだし、こしみずの農作業支援事業を含め、全国の動きを先取りした取り組みが道内で動いていると言える。北海道からもこうした事例を積み上げ、全国に発信していく必要があるだろう。

小林 これまで組織基盤の強化については、最初に合併目標を掲げ、そこに向かって北海道もやってきたが、今は各JAの考え方を最優先し、単独でいくのであれば支援していきましようというスタンスに変わっている。そこをこれからも大事にしながら、農協のあり方をもう少し広い視野から柔軟に考えていければ、JAというのには十分に持続可能な存在であり、再評価されてきている部分もある。これまでやってきたことに自信を持って取り組みつつ、まずは組合員や地域の人たちに理解してもらいながら、外にも発信していただきたい。今日はありがとうございます。(おわり)



JA北海道中央会



新型コロナウイルスに関する対応策について意見交換を実施いたしました。

意見交換会ではJA北海道中央会の飛田会長より、生産者に感染者が出た際の農作業への影響や学校給食の休止に伴う生乳の需給問題、外国人技能実習生の入国遅延などの課題解決に向けた対応を国に求めました。

伊東副大臣からは、農業者など1次産業の従事者が感染した際の対応策を示す重要性に触れ、「生産現場向けガイドラインを示し、感染防止、風評被害の払拭に努めたい」との発言がありました。

JAグループ北海道としても引き続き、組合員の営農及び生活を守るため、組合員に感染者が生じた際の対応や北海道産農畜産物の消費拡大に向け、各作目別対策本部及び北海道農政事務所等と連携して参ります。

JA北海道中央会、ホクレンは「新型コロナウイルス対策に関する農林水産省北海道現地対策本部（対策本部長：伊東農林水産副大臣）」と3月9日に新型



JA北海道信連



北海道日本ハムファイターズでは、ウィンタースポーツに楽しむ子どもたちが増え、北海道の活性化に貢献することを目的に、ウィンタースポーツの競技・活動団体に対する助成事業「ゆきのね奨励金」を実施しています。JAバンク北海道もこの考え方に賛同し、令和元年度より当事業に協賛をしています。当年度は道内9地域・7競技の11事業に対して支援を行いました。



JA共済連北海道



JA共済連北海道では、令和元年度の交通安全活動への積極的な取り組みが評価され、北海道警察より感謝状が授与されました。今年度は「自動車交通安全教室（スクエアード・ストレイト）」、「全道小・中学生交通安全ポスターコンクール」をはじめとして全13の活動を実施しております。くるまの保障を取り扱うJA共済では、交通事故を一件でも減らすために、これからも交通安全活動によって地域住民の交通安全意識の高揚を図り、交通事故のない社会づくりへ貢献していきます。



ホクレン



ホクレンの「スポーツ応援米」を活用し、北海道スポーツ協会主催にて「きたえーるトップアスリートチャレンジ」が1月12日に札幌市にて開催されました。

ホクレンは同商品の売り上げ1kgにつき1円を同協会に寄付し、スポーツ振興に役立てており、同イベントでは小学1～4年を対象とし、北海道日本ハムファイターズのスペシャルアドバイザー田中賢介さんらトップアスリートを招いて、様々なスポーツ体験にチャレンジしました。



JA北海道厚生連



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。



JAグループ北海道の連合会・中央会の活動内容を紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。





カーテンや窓を開けていますか？

気温の寒暖差が大きい時期となり、「牛舎のカーテンや窓を開けようか？閉めようか？」と迷うことが多いと思います。牛舎の換気を行うと、①新鮮な空気を取り入れ、湿気やホコリなどを排出する②牛舎内の温度やアンモニア濃度を下げ、牛の快適性を確保することができます。**牛舎を閉め切ると、どのくらい空気がこもるのか？**ということを見える化するため、牛舎内の二酸化炭素濃度（以下CO₂濃度。換気状態の良否を示す指標）を調査しました。

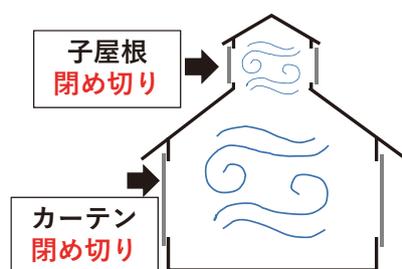
CO₂ 濃度調査事例（フリーストール牛舎）

- 根室管内のA牧場にて、同一日における牛舎内の「換気なし（カーテンを閉め切った状態）」と「換気あり（カーテンを開放した状態）」のCO₂濃度を測定しました。

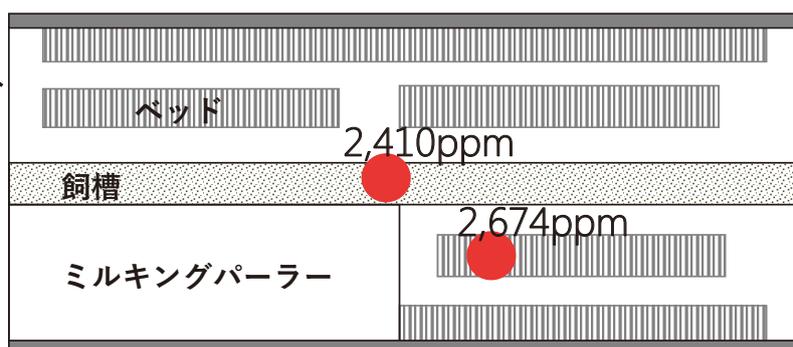
調査概要

調査日：2019年11月末
天候：晴れ 外気温：1.8℃
搾乳牛：約120頭

換気なし（送風機は無回転）

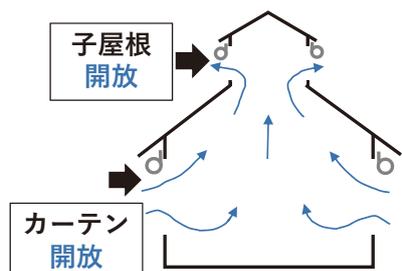


外気452ppm

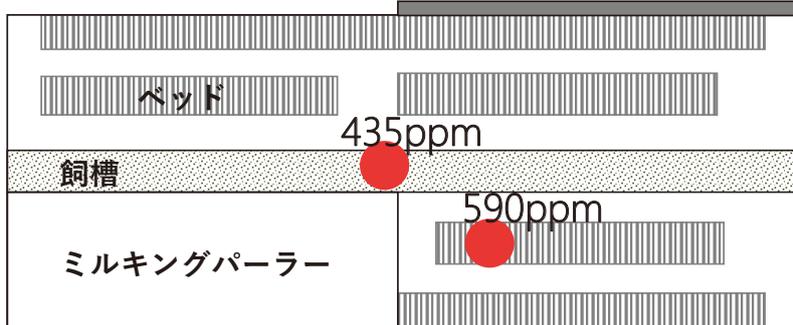


換気あり（送風機は無回転）

※凍結により一部カーテンを閉めた状態で調査した



外気452ppm



全てのカーテンを閉め切るとCO₂濃度が上昇し（冬季における、フリーストール牛舎の目安は800ppm以下、つなぎ牛舎の目安は1000ppm以下）、目安の値よりもはるかに高いという結果となりました。一方、カーテンを開けた直後からCO₂濃度は低下し始め、外気の値に近づきました。牛舎内に新鮮な空気が入り「十分換気されている」ことがわかります。ただし、子屋根のカーテンを開けないと、牛舎内の空気の流れは弱いことも同時に確認できました。

乳牛の生産性維持・向上や疾病予防のためにも、「特に日中は」こまめに牛舎のカーテンや窓を開けて換気するように心がけましょう。

生乳販売情報

令和元年度3月末 管内農協生乳受託実績表

(kg)

農協名	月 計		累 計		搾乳戸数	
	乳 量	前年比	乳 量	前年比		
J A 標 津 町	8,622,704	106.7	98,866,702	104.9	127	
J A 中 標 津 町	10,972,894	110.1	122,252,279	103.9	163	
J A け ね べ つ	6,996,458	106.8	80,895,919	103.7	135	
J A 中 春 別	10,350,640	108.1	115,379,380	103.2	170	
道東あさひ	西 春 別 支 所	7,545,104	106.8	85,372,326	102.3	126
	上 春 別 支 所	5,300,884	103.2	61,201,518	101.8	70
	別 海 本 所	11,952,083	108.9	138,413,846	103.0	220
	根 室 支 所	4,112,110	113.9	46,842,978	104.7	80
	小 計	28,910,181	107.9	331,830,668	102.8	496
合 計	65,852,877	108.0	749,224,948	103.4	1,091	

市場情報

ホクレン根室家畜市場 一般市場 3月18日開催分

税込み

ホクレン十勝地区家畜市場 (音更町)

肉牛 (和牛) 市場 3月13日開催分

税込み

畜種	出場	成立	最高	最低	平均	先月との差
乳牛・ホル 育成	61	61	577,500	103,400	414,952	24,259
乳牛・ホル 初任	20	18	777,700	330,000	606,100	-59,612
乳牛・ホル 経産	7	7	421,300	275,000	330,157	14,797
乳牛・ホル・無経産						0
肉素・黒毛和種・メス						-401,220
肉素・黒毛和種・オス	1	1	385,000	385,000	385,000	351,844
肉素・黒毛和種・去						0
肉素・乳用交雑・メス						0
肉素・乳用交雑・オス	1	1	155,100	155,100	155,100	155,100
肉素・ホル中犢・メス						-140,760
肉素・ホル中犢・オス	5	5	123,200	5,500	76,120	36,808
肉素・ホル中犢・去	3	3	143,000	101,200	118,067	8,987
肉素・ホル・メス	15	15	304,700	128,700	246,620	52,760
肉素・ホル・オス						0
肉素・その他・メス						0
肉素・その他・去						0
初生・黒毛和種・メス	16	15	645,700	111,100	420,053	-34,229
初生・黒毛和種・オス	13	13	617,100	294,800	498,215	-66,513
初生・乳用交雑・メス	112	111	240,900	3,300	146,607	-56,211
初生・乳用交雑・オス	115	114	349,800	84,700	234,532	-72,433
初生・ホル・オス	132	132	221,100	36,300	117,392	12,075
初生・ホル乳用・メス	30	29	342,100	70,400	250,231	-61,054
初生・異性双児・メス	11	11	93,500	11,000	60,400	11,309
初生・その他・メス						0
初生・その他・オス	2	2	6,600	1,100	3,850	-55,550
廃用黒毛和種	1	1	220,000	220,000	220,000	-75,380
廃用・乳用交雑	1	1	246,400	246,400	246,400	-60,320
廃用・ホル	179	179	338,800	30,800	178,470	-33,576
廃用・その他						-96,120

畜種	出場	成立	最高	最低	平均	先月との差
肉素・黒毛 メス	447	380	940,500	134,200	547,861	-152,504
肉素・黒毛 メス ET	261	208	938,300	332,200	635,350	-141,979
肉素・黒毛 メス計	708	588	940,500	134,200	734,403	5,853
肉素・黒毛 オス						
肉素・黒毛 去勢	664	583	1,078,000	35,200	654,851	-156,474
肉素・黒毛 去勢 ET	355	285	1,029,600	130,900	734,503	-134,232
肉素・黒毛 去勢計	1019	868	1,078,000	35,200	790,140	-41,864
肉素・短角種 去						
肉素・肉専用種 去						
繁殖・黒毛	68	46	1,377,200	224,400	559,063	-153,180
繁殖・乳用交雑	20	11	698,500	430,100	653,000	-102,933
廃用・黒毛	66	65	515,900	88,000	314,854	-18,421

計根別農協乳牛頭数・肉用牛頭数

3月1日現在

乳用種(区分)	頭数	先月との差
未経産12ヶ月未満	3,763	28
未経産12ヶ月以上	4,209	-6
その他の未経産	56	-1
計	8,028	21
経産牛(ホル)	9,854	13
その他の経産牛	60	1
計	9,914	14
合 計	17,942	35

ホクレン根室家畜市場 乳牛市場 (セール) 3月16日開催分

税込み

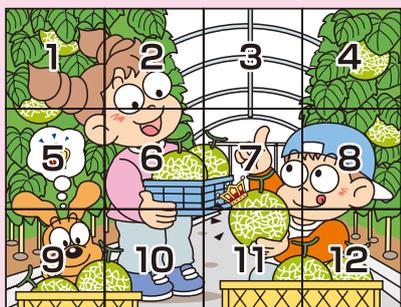
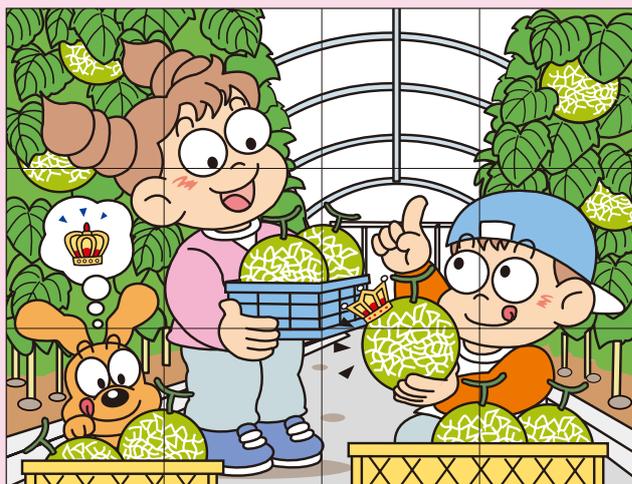
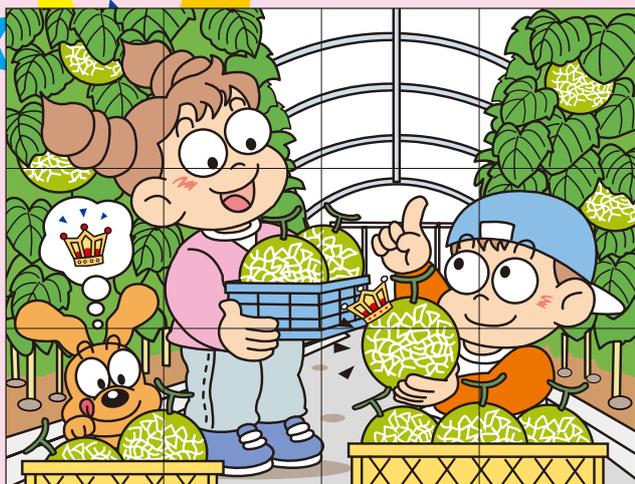
畜種	出場	成立	最高	最低	平均	先月との差
乳牛・ホル 初妊	405	381	1,038,400	441,100	849,555	84,918
乳牛・ホル初妊ET	42	35	1,093,400	660,000	952,977	60,196
乳牛・ホ無 初妊	6	6	809,600	684,200	737,183	-4,237
乳牛・ホ無 初妊ET						0
乳牛・ホル 経産牛						0
その他の乳用種						0
合 計	453	422	1,093,400	330,000	711,864	-65,742

肉用種(区分)	頭数	先月との差
黒毛和種 メス	536	-2
黒毛和種 オス	80	-1
計	616	-3
F1(交雑種) メス		
F1(交雑種) オス		
計		
合 計	616	-3
総 合 計	18,558	32

計根別農協(ホクチクファーム) 初生トク *単価 3月18日現在 2,000円/kg

まちがいさがし

右のイラストには左のイラストと違う部分が**5カ所**あります。間違っている部分を左下の枠内の数字で探しましょう。



- 正解者5名の方にすてきなプレゼントをさしあげます。なお、正解者多数の場合は抽選とさせていただきます。
- 《応募方法》左下の点線の部分を事務所入り口に設置している投書箱へ。または、営農企画係までFAX(78-2048)をお願いします。
- 《締め切り》2020年4月20日まで
当選者の発表は「けねべつ」2020年5月号誌上

まちがいさがし3月号の答え

2 4 7 9 12

抽選の結果右記の方が当選いたしました。プレゼントを営農企画係でお受け取り下さい。

- 松永 良一さん
- 武田 千代さん
- 小林 誉子さん
- 松田 陽向さん
- 根岸 榮子さん

きりとり線

まちがいさがし 4月号の答え

--	--	--	--	--

住所 _____

氏名 _____

TEL _____

「つばやくべえ〜」へ投稿する

きりとり線



◆吹雪の中ありがとう!!

猛吹雪の中ライブDVDを届けてくれたクロネコヤマトさんありがとう 大好き
(ペンネーム みそしる大臣さん)

◆今年も大変なことに…

3月5日の猛吹雪と10日の大雨で春の大洪水にやっぱり今年も陸の孤島になりました。役場と消防に助けをもらい、安否の電話を下された方々、ありがとうございました。
(ペンネーム なかよしさん)

◆自然を甘くみては絶対ダメ!!

7年前の猛吹雪を思い出しゾッとしました。孫と救助してもらったのが夜の11時でした。今回は皆さん無事でよかったですね!!教訓が生きたね…。
(ペンネーム 山親父さん)

「つばやくべえ〜」では皆さんのつばやきやシャッターチャンスなどを募集しています! 営農企画係までメールするか事務所玄関の投書箱への投稿お待ちしております!
einoukikaku@kenebetsu.ja-hokkaido.gr.jp

この写真を見て一句!



先月のお題『冬の晴れた日』でした。

青空に 丹鳥飛びし 春を待つ
(なかよしさんの作品)

太陽に 照らされて光る 樹氷林
(じゅひやうりん ばあちさんの作品)

葉はなくも 枝は激しく わかさざか
(豆鉄礼さんの作品)

空仰ぎ 腰伸ばす朝 木の芽晴
(小田 慶喜さんの作品)

雪吊を 解かれし木々の 深呼吸
(小田 和子さんの作品)

日溜りで ワラを相手に 燥ぐ牛
(松風さんの作品)

北風に 耐えて春待つ 樹氷林
(松風さんの作品)



今月のお題『春の訪れ』です。
 皆様の素敵な作品をお待ちしております。
 (4月20日締切) 営農部までFAXまたはつぶやくべで。
 また、お題の写真も募集しております。
 素敵な写真がありましたら、是非ご提供してください。

例 文

彼の背中 見送る涙 春の川
 春迎え 止まった刻が 動き出す
(星白金さんの作品)

